

「生活の場としての老人ホーム」の始まりとその変遷

－「食事」を中心とした処遇の変遷－

○ 明治学院大学社会学部付属研究所 氏名 高橋明美 (007962)

鳥羽美香 (文京学院大学・002910)

キーワード: 老人ホーム・生活の場・食事

1. 研究目的

1972 年の中央社会福祉審議会老人福祉専門分科会「『老人ホームのあり方』に関する中間報告」(以後「中間報告」とする)において、「老人ホームを「収容の場」から「生活の場」へと高め、福祉ケアとしての老人の心身機能に応じた内容と、個人のプライバシーを重んずる一般の住居水準に劣らない内容とを有するようにすべき」との方針が示された。

筆者達は戦前の養老事業から「食事」を軸にその内容をもとに処遇に関する考察を続けているが、本研究は、戦後、特に 1970 年代以降の老人ホームの近代化が進む中で、当時の実際の実践現場において、「食事」がどのように変遷し、それが処遇にどのような影響を与えたかについて、明らかにすることを目的とする。なお、本研究における老人ホームとは養老施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホームを言う。

2. 研究の視点および方法

本研究は文献研究である。老人ホームにおける現場実践が述べられている『養老事業だより』(全国養老事業協会)と後続誌の『老人福祉』(全国社会福祉協議会、全国社会福祉協議会老人施設協議会)、『社会事業』(中央社会福祉協議会・全国社会福祉協議会)と後続誌の『月刊福祉』(全国社会福祉協議会)、『ゆたかな暮らし』(時潮社)等を主な対象とし、食事に関する記事が確認できた 1949 年から、1972 年の中間報告以後献立の顕著な変化があると仮説を立てた 1980 年代までの間について、食事の提供方式や提供時間、メニューの変化などに着目して記事を収集分析し、各地の老人ホームの取り組みや状況を考察した。

3. 倫理的配慮

本研究は、雑誌記事等公開されている資料を基に分析を行い、個人情報扱っていない。文献の引用等については日本社会福祉学会研究倫理指針に則して行った。

4. 研究結果

雑誌記事等を分析したところ、老人ホームにおける食事への取り組みは、献立の多様化、行事食、選択食、バイキング食などの高齢者の嗜好を尊重した取り組み(表 1)と、適温食、食事時間の見直しなどの高齢者の処遇に配慮した環境調整などの取り組み(表 2)に区分できた。

表1 嗜好を尊重した取り組み

年	雑誌名	題名	キーワードなど
1949	養老事業 だより3	財団法人浴風会浴風園の近況	主食不足 園内で甘蔗栽培
1955	社会事業 38 (3)	付 老人に対する給食の問題について	献立表、嗜好聴取、二種類以上の給食、特別食
1957	老人福祉 (19)	養老施設の給食概況二	四季の行事、季節の献立、パン食献立
1962	月刊福祉 (8)	老人食を地域の中に	米の偏食、講習会、給食アンケート
1965	老人福祉 (33)	養護老人ホームにおける栄養教育	話し合いによる栄養教育
1968	老人福祉 (36)	老人によりよき暮らしを「昭和42年全国老人福祉施設関係者会議報告」	栄養士の未配置 楽しい雰囲気のある献立カードの作成
1969	老人福祉 (38)	老人の献立カード発刊のご案内	献立カード発刊
	老人福祉 (40)	老人の生活歴と嗜好について 老人の栄養教育	選ぶ自由と楽しみ 複式献立 教育 話し合いと実行 給食委員会
1971	老人福祉 (42)	これからの老人ホームにおける給食	パン食 四食制 複式献立 委託給食
	老人福祉 (43)	老人ホームにおける健康指導	個別指導カードの作成
1973	老人福祉 (45)	開かれた施設へ“転身”老人ホームの給食機能の地域開放に関する実験報告	在宅老人への食事サービス 昼はパンかうどん パンとご飯好きな方を選ぶ
1975	(長浜和光園で三食バイキング開始)		
1979	老人福祉 (55)	老人ホームにおける行事食について	行事食 実施時には老人の参画 バイキング 複数献立 模擬店 喫茶 食堂 高温給食 家庭的な雰囲気
1982	老人福祉 (61)	特別養護老人ホームにおけるバイキングへの取り組み	生活の場 3食バイキング 自分たちの家庭 自主的で自由 管理されていない生活 選択献立
	ゆたかな 暮らし (8)	籠の鳥は鳥の資格を失う 施設らしさをとりのぞく 「生活の場」にできるか老人ホーム	三食バイキング 家庭なみのスタイル 生活の場 生活の色 生活のいぶき
1983	老人福祉 (64)	老人福祉施設における 食事サービスの向上を目指して	複数献立 バイキング 豊かな楽しい食事作り
1984	『給食と文化』	広島や兵庫でも三食バイキング実施。一般食とキザミ食もあり。東京都でも\$51から実施。都でも昨今ではバイキング奨励。	
1985	ゆたかな 暮らし (35)	カルテをつくって嗜好つかむー調理場からー	嗜好カルテ 懇談会 代替食 お好み食 家庭的な食生活
		3食バイキングの試み	生活の場 家庭的な食事作り 自ら考え選択する 主体性をもって生活 バイキング方式
1986	ゆたかな 暮らし (57)	分科会レポート 三食バイキングの給食実践	三食バイキング 健康の自己管理 自分で考えて食べる 給食委員会 自主性の疎外 地域のお年寄りの食生活、老人ホームの専門性
1988	老人福祉 (81)	特集 老人ホームでの食生活をめぐる課題と取り組み〜より豊かな生活をめざして〜「お年寄りの食生活と健康」	嗜好を活かす 栄養士との連絡 選択食 一人ひとり注文を取る 6時から8時が食事時間
		特集Part3 「給食ではなく“ごはん”を選択メニューで楽しい食事」	数種類のメニュー 好きなものを選んで食べる 給食ではなく「ごはん」自分の目で確かめて注文
1989	老人福祉 (82)	私の発言コーナー テーマ「老人とお酒」	生活の場 家庭生活の延長 お酒 自由

表 1.2 とともに筆者ら作成

表 2 環境調整への取り組み

年	雑誌名	題名	キーワードなど
1956	老人福祉 (18)	「養老施設の給食概況一」	保健所の協力、ブロッコ研究 会、施設長の関心
1983	老人福祉 (64)	食事自由時間制への取り組み	食事自由時間制 自分のは自分でやる 他人の手伝う 自分で選んでくる 自分の生活を作り出す
1983	ゆたかな 暮らし (19)	時評 「老人ホームの職員あり方を考える」	もりぎり現状維持 夕食時間の改善 職種で意識に違い
1983	ゆたかな 暮らし (23)	ホテルのような一日 小田原<長寿園>での体験入居	夕食は五時朝食は六時 献立表の掲示
1986	老人福祉 (74)	「老人福祉施設の栄養士・調理員として<チーム・ワークの中から>」	人間本来のあり方 楽しく食卓 離床運動
1987	ゆたかな 暮らし (66)	座談会 一施設・病院の給食を考へるー“早い、まずい、冷たい”の改善を私たちの手で	適温給食 食事時間
		「給食の外部委託をめぐる争点と医療・福祉労働」	給食の外部委託認める
1988	老人福祉 (81)	特集Part2 「日本型食生活でバランスよく」	適温給食と食事時間適正化および選択食の課題 生活の場 施設機能の向上
1989	老人福祉 (82)	第3回全国老人ホーム基礎調査から何を読み取るか 「3回の基礎調査が老人ホームにみたもの」	食事の重要性 盛り切りから選択食へ 選べる食事の増加 全員同じ食事が相当に多い 夕食時間の改善 5時以前の夕食 食事時間幅の改善

5. 考察

老人ホームの食事は、1960年代に入ると、栄養や健康だけではなく「楽しい食事」を目標とし、また複数献立や献立カードの発刊など多様な献立への取り組みが活発化した。1972年の中間報告が出された後は、「生活の場」における食事のあり方を模索し、1975年に長浜和楽園が3食バイキング方式を始めからはそれが各地の取り組みに影響を与えた。入所者の自由度を高め、自主的・主体的な生活につなげていく取り組みや、食事時間の適正化や自由化などを通じた家庭的な処遇へ向っていく経過が明らかとなった。